

花と迎える年末年始



〈活動概要〉

本活動は「コミュニケーションスキルの育成」「伝統の継承」「駅利用者への彩り提供」を主目的に、JR三鷹駅内 アトレヴィ三鷹にて年末年始のいけばな作品の展示を行なった。12月初旬の現地探寸や担当者との打ち合わせを経て、今回第10回の節目を迎えるにあたり、改札階からも視認できる立体的なデザインを構想した。従来の借用机に頼らず、専用の土台を自作して持ち込む新たな手法で展示を試みた。

〈活動紹介〉

12月26日、八王子キャンパスから切り出した竹を学生自ら選別・加工を行う「ものづくり」の工程から制作を始めた。翌27日には三鷹駅にて、作品の制作過程をあえて公開する「公開生け込み」を実施した。足を止める利用者から「完成が楽しみ」との声が上がるなど、ライブ感のある交流が学生の励みとなった。

展示は1月6日まで行い、期間中は学生が交代でメンテナンスに従事した。駅スタッフや利用者から声をかけられる機会や作品を足を止めてみてくださる姿もあり、維持管理のプロセスを通じて地域との対話が生まれたと言える。撤去後は、学内での鑑賞機会を設けるため、1月9日まで井の頭図書館にて移設展示を実施した。



竹を選んで切る学生たち



準備に勤しむ学生たち



展示初日(12月27日)の様子



年始用の花の展示
(12月31日に取り換えを実施)

〈活動総括〉

地域貢献の面では、「公開生け込み」を通じてコミュニケーションを図りや、三鷹駅の「季節の風物詩」としての地位を確立する高い達成度を得たと認識している。教育面では、自然素材の加工やシフト制の管理に主体的に関わったことで、学生の責任感と自信が向上した。一方で、現場での「指示待ち」の姿勢など組織運営上の課題も明確になった。今後はチームビルディングを強化し、学生がより自律的に動ける体制の構築を目指し、活動を継続していきたいと考えている。



井の頭図書館での展示